

遠賀川流域通信

発行日 2006年3月1日 発行責任者 特定非営利活動法人 遠賀川流域住民の会 理事長 窪山邦彦

遠賀川流域住民の会活動報告会開催

平成一七年十二月十日(日)飯塚市のがみプレジデントホテルで第十一回「遠賀川流域住民の会活動報告会」を開催。遠賀川河川事務所 松木所長に「遠賀川の未来」と題して記念講演をしていただいた。地域団体活動報告は、田川農林高校の生徒による「メダカの調査」、日本野鳥の会筑豊支部 松尾支部長に「遠賀川の野鳥」と、それぞれ報告いただいた。

記念講演「遠賀川の未来」

遠賀川河川事務所所長

松木洋忠氏

まず「交流軸から見た遠賀川流域」では、遠賀川流域の地質や歴史について話をしていた。

現在の遠賀川流域の状況

六市二十五町一村
流域人口は六十七万人
人口密度は六百五十人/km²
堰・床止は四十カ所
下水道普及率は三十%



記念講演をしていただいた松木所長

ほとんどの河川は下流に大きな都市があるが、あまり大きな川とはいえない遠賀川は、上流・中流下流と都市が点在しているのが特長である。そのため流域全体で統一した取り組みを行うことが難しい面もあるといわれる。流域の住民や行政の連携が要であると感じた。

また「煉瓦と石材でできている筑豊の明治の鉄道」では、遠賀川流域の発展に貢献した鉄橋の基礎、レンガや石材などについて、所長自ら調査した資料で説明いただいた。明治・大正に造られ、いまも現役でその役割を果たしている。見慣れた風景に歴史の重みを感じた。会場も多くの人がうなずかれていた。

遠賀川をどのような河川にしていくか、百年先・二百年先を見通して造ることも大切。そのために、歴史に学び、良いものを未来の人たちに手渡していきたいと話された。

「川について学習したい」というひとりの学生の言葉から、活動は始まったという。

現在、田川地域の川の水質検査や校内にビオトープを作りメダカの繁殖や生物の生息調査をしている。また、その調査研究を環境学習として小・中学校で「出前学習」を行っている。その取り組みが評価



水質調査器具の説明をしていた様子

メダカの調査報告

田川農林高校

され、賞も受賞された。

メダカの報告では、メダカは田んぼと用水路を行き来して生活しているもので、少々水が汚れていても生きていける強い魚である。しかし、今、絶滅が心配されている。多くの原因は田んぼが昔と変わってきたことだ。現在の田んぼはコンクリートに囲まれ用水路と田んぼに段差ができ、メダカが行き来できない。さらに、冬場は用水路に水がないため水生動物(メダカなど)が生きられない環境になっているという。

学生のみなさんがふるさとの川に興味を持って活動されていることに本当にうれしく思った。これからも後輩にも引き継がれ、がんばっていただきたい。

遠賀川流域の野鳥

日本野鳥の会
筑豊支部



松尾節朗支部長より報告いただいた

支部の前身である「筑豊野鳥の会」が昭和四十六年にスタート。昭和六十年「日本野鳥の会・筑豊支部」が発足した。現在二百三十二名の会員が活動している。

筑豊には二百三十三種もの野鳥が生息している。年間二十四回の探鳥会を中心に、英彦山例会を毎月定例化、筑豊各地を巡回し、野鳥を通じた自然環境保護に力を入れていく。また、植物部の例会も増え、毎年二十回以上の自然観察会を実施しているという。

会場には数々の貴重な野鳥のパネルを展示いただいた。「遠賀川流域通信」でも「遠賀川の生きものたち」のコーナーで支部の協力を得て野鳥を紹介している。

川舟に乗って嘉穂町から稲築町まで

水質

調査

平成十七年九月四日、川船製作研究会と合同で、嘉穂町から稲築町まで、遠賀川を下りました。川ひらたに乗っての川下りは、普段は川岸から見ている川を水面近くで直接触れることができ川の違った表情を知ることができました。また、同時に舟から採取した試料の水質検査を行いました。

朝九時に嘉穂町の火渡り橋付近の仏蔵堰を出発しました。総勢約二十名出発。途中の堰では舟を下ることができないため、舟を抱えあげて下流の足場のよいところまで運び、再び川面に下ろすことになりました。

当初はお昼までに稲築町に着く予定でした。しかし、途中で何度も舟を上げて堰を越えないといけないために、非常に労力と時間がかかり、結局、午後2時過ぎに到着しました。稲築町に着いたときは、皆へとへとになっていました。こんなに舟が通らない堰が多いと、魚も簡単には川が上がってくるので、きかないでしょう。

稲築町では、「いなつき環境を考える会」「いなつき河童共和国」の方々が昼食を準備して下さり心からのおもてなしを受けました。

さて、水質検査の結果ですが表にありますように、全体に嘉穂町の上流から下流にくだっていくにしたがい、それぞれの項目は増加傾向にあることがわかります。

「遠賀川流域住民の会」では、会員団体と協力して毎年水質調査を実施しています。実際に人々が川に触れることで、川を知り、川の尊さ、川の大切さを学び、そして、たくさんの人々に「遠賀川をもっときれいな川にしていきたい」という思いが育まれることを願っています。

今回は遠賀川の上流（嘉穂町から稲築町）を「川船製作研究会」の皆さんと、笹尾川を「笹尾川水辺の楽校運営協議会」の皆さんとそれぞれ合同で調査、その結果を報告します。

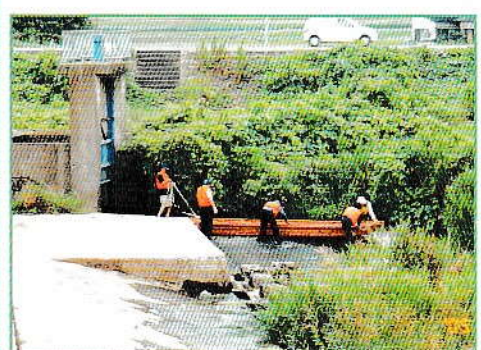
上流の火渡橋では、透明度が高く魚が多く見られました。アンモニアやABSなどが検出されており、上流域でも家庭排水による汚濁がすすんでいると推測されます。更に下った上西郷橋、一作堰では、採水場所の近くに排水桶管があり、ごみなどが浮いていて、水も停滞気味でした。ここではCOD・ABSが高く、近くにある排水桶管からの家庭排水の流入による局地的な影響も考えられます。



遠賀川上流嘉穂町から稲築、遠賀川支流笹尾川の水質調査採集場所



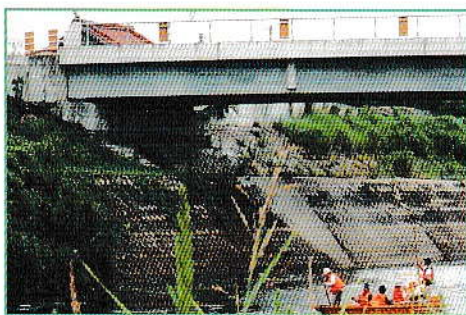
① 出発地点の火渡橋（嘉穂町）



② 長田橋（嘉穂町）



⑤ 一作堰（稲築町）



④ 上西郷橋（碓井町）



③ 大隈水辺の楽校（嘉穂町）

笹尾川水辺の楽校で遊ぼう

遠賀川上流と笹尾川



本川でのカヌー教室、上手にスイスイ

遠賀川は北九州市の西の端約10kmのみを接して中間、水巻へと流下しています。北九州市の水道の約60%はこの遠賀川から取水しています。しかし、その水質は流域の家庭排水による汚濁がすすみ悪化しています。水道水源となる河川の浄化の大切さを住民の皆さんに知ってもらうと整備したのが「笹尾川水辺の楽校」です。

笹尾川は遠賀川の支川で、本川から「寿命の唐戸」を通って流れる堀川運河と合流しています。

《笹尾川水辺の楽校》では十月十日、笹尾川水辺の楽校運営協議会と遠賀川流域住民の会が連携して「笹尾川水辺の楽校で遊ぼう」と題してカヌー教室や水質調査などを行いました。

当口は、近隣の小学生六十名と保護者やお世話係、学生ボラ



笹尾川水辺の楽校で水質調査

ンティアなど、総勢二百五十名が参加しました。

昼食には楠橋市民センターひまわりの会の皆さんがカレーを作って下さいました。

カヌー教室は川塾北九州の講師の皆さんによる、陸上講習と実技指導があり、一時間という短い時間で、参加した小学生に大変好評で、今後も機会があればカヌーをしたいという感想が多くありました。

水質調査は遠賀川河川事務所との協力を得て行いました。簡単な機器やバックテストを用いた水質検査とゴミの量、水のおいしさ、川底の感触など感覚的な調査、水生生物調査などを行いました。川の調査も子供たちは非常に興味を持って参加していました。

笹尾川の評価結果

※人と川のふれあい=C ごみは日に付くが我慢できる。川底の感触はヌルヌルしていて気持ち悪い。不快なおいはいない。

※豊かな生態系=B 少し汚い水

※バックテストの測定結果からみると、COD、アンモニアなどの数値が高く、あまりきれいではない川といえます。

水質調査結果表										
場所	時間	水温	pH	電気伝導率	COD	硝酸	アンモニア	リン酸	ABS*	溶存酸素
		℃		μs/cm	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
遠賀川上流(嘉穂町～稲葉町へ) 9月4日										
1 火渡橋	9:15	25.0	7.8	170	2	1	0.5	<0.2	0.5	7
2 長田堰	10:30	27.2	8.0	200	3	<1	0.2	0.2	0.5	6.5
3 大隈水辺の楽校	12:10	26.8	8.0	190	3	<1	0.75	0.2	0.5	6
4 上西郷橋	13:20	26.2	8.0	220	5	0.5	0.2	0.1	0.75	5
5 一作堰	14:00	26.8	8.0	240	3	1	0.5	0.2	1	6
笹尾川(北九州市八幡西区)10月10日										
6 本川	10:00	22.8	7.7	400	5	2	0.2	0.2	0.7	5.5
7 水辺の楽校水路	13:00	23.3	7.7	400	8	2	1	0.2	0.7	6

- ※pH=水の酸性・アルカリ性の強さを表す指標。7より小さいと酸性、大きいとアルカリ性。普通の淡水は7前後を示す。
- ※電気伝導率=水が電流を伝導する能力をいい、水中に溶けているイオン量(電化を持っている物質)などによって変化する。
- ※COD=酸化剤によって水中の汚れのもと(有機物など)を分解した時に使われる酸素の量を表したものの。水の汚れを示す代表的な指標で、値が高いほど水が汚れていることを示す。
- ※硝酸=水中の由来は肥料、腐敗した動植物、生活排水、下水汚泥、工場排水、塵芥などの残渣による。
- ※アンモニア=有機窒素化合物の分解、工場排水、下水及び尿の混入によって生じる。
- ※リン酸=川への流入原因は、農地に使われた肥料、生活排水、工場排水、畜産排水など。窒素(硝酸・アンモニアなど)とともに富栄養化の原因物質。
- ※ABS(陰イオン界面活性剤)=合成洗剤の一つ。界面活性剤は洗濯洗剤やシャンプーなどの日用品の洗浄成分として使われている。
- ※溶存酸素=水中に溶けている酸素のこと。供給源の多くは大気であるが、藻類の光合成により発生した酸素もある。

遠賀川の皆さんの 大野川(大分県)散策

平成十七年十一月十九、二十日大野川の河童さんこと、幸野敏治さんに誘われて大分県の清流、大野川散策と川仲間交流に出かけた。古い民家を使わしてもらっているという三重の河童小屋は、大分大学生の研究室にもなっているとのこと。水質調査機器が一杯。感激したのは、「三重川を守る会」の廃油ローソク作り。石けんも作っているがこちらの方がイベントに使えとのこと、とても参考になった。

宿泊は欧州風の建物、川上渓谷「ほしこが」。河童村の皆さんとひざをつき合わせての川談議に盛り上がった。

翌朝、大野川支流の一四箇所に立てているという源流の碑の一つ。奥岳川源流の碑まで散歩を満喫した。その後、ふもとに下り、竹田市竹田湧水群を、更に萩町の陽目渓谷白水の滝という大規模な水の風景を堪能した。

川の素晴らしさ、人情の温かさを思い知らされた視察研修となりました。幸野さん安達さん本当にありがとうございました。



「白山川を守る会」のお手製河川公園、「気をつけて遊んでね」の看板に地域の人々のやさしさが感じられる。



川辺のミニパークには「三重川の水辺の野鳥たち」のパネルが展示されており、身近な野鳥の特長などが記入され観察するのに役立つとのこと。

遠賀川の生きものたち



ミソサザイ
ミソサザイ科

古事記や枕草紙にも登場する雀よりもはるかに小さくチョコレート色の野鳥で、体全体に灰白色や黒い細かい斑点が覆っている。尾は短いがピンと跳ね上がっていて、動作が敏捷でいつもあちこちと動き廻っている。谷間の溝伝いに移動し、くるりと反転してまた戻ってくる。

昔は筑豊の山間部にはどこにでも観察できたが、最近ではぐっと居場所を無くしている。間違いなく観察したい方は、英彦谷の豊前坊に三月～五月に出掛けられるとよいであろう。豊前坊の溪流添いの倒木や岩の上に止まって繁殖期には鳥居や千木や石灯籠など目立つところで一日中囀っている。ピピスケスケチルチルピヨロピヨロピヨロピリピリリルルと、切れ目なく精一杯の大きな声で囀っている。オペラや音楽会で独唱しているといってもよいだろう。

豊前坊の高住神社の社殿の中に営巣したり、崖下の登山道の岩陰にも営巣して子育てをしている。巣づくりが巧みで雄は二つの巣を作り雌を誘い、雌が気に入った方に入って内装して完成させる。苔だけで巧みに作る。その巣はまるで芸術品である。巧み鳥とか、ミソッチョという別名がある。ミソッチョはその体の色からきたものであろう。昆虫やその幼生を食べている。地鳴きはチャッチャッと強く警戒するように鳴く。日本野鳥の会筑豊支部 松尾節朗

インフォメーション

遠賀川源流の森づくり植樹開催のご案内

遠賀川源流の森づくり推進会議

日時 平成18年3月4日(土) 10時30分(受付開始)

場所 夢サイトかほ 生涯学習センター 集合

※今回は福岡県植樹祭が嘉穂町で開催されることとなり、植樹祭の一環として植樹を行います。

問い合わせ 遠賀川源流の森づくり推進会議事務局

電話：0948-57-1967 FAX：0948-57-4020

「もっと知りたい遠賀川」出版記念シンポジウム

日時 平成18年3月19日(日) 13時30分開始16時終了

場所 飯塚市 イイヅカコスモスコモン展示ホール

コーディネーター：西谷正氏

パネラー：鳴田光一氏・恵長宏氏・小川賢氏
長弘雄次氏・松木洋忠氏

母なる遠賀川にあなたのやさしさを

特定非営利活動法人遠賀川流域住民の会

理事長 窪山邦彦

事務局長 植木康太

問い合わせ先

TEL・FAX 0947-45-0594

ホームページ <http://onga.sa-ba.jp/>